

群在する巨大墳墓・濠巡らす王の館・海を越え来た文物・
仰ぎ見る荘厳な仏塔・金色の仏たち

この土地はかつて あづまの中心だった…

前橋・高崎の古代遺産

古墳から寺院へ

東国千年の都

大室古墳群●保渡田古墳群 ●三ツ寺I遺跡●北谷遺跡●大屋敷遺跡 ● 剣崎長湍西遺跡●八幡観音塚古墳
物埴輪●鶺鴒埴輪●円筒埴輪群●須恵器●ガラス玉●金製垂飾付耳飾●金銅製飾履●韓半島系軟質土器●古式馬具
軒平瓦●軒丸瓦●放光寺文字瓦 ●総社古墳群●山上碑●山王廃寺●人
●塑像●仏頭●奈良三彩●鉄製鋤先●

政治・経済・人口・交通の要衝、前橋・高崎両市。
この両市の連携事業から、新しい群馬の歴史が見えてくる。

【開催にあたって】

このたび、前橋・高崎連携事業として、両市出土の考古資料を合同で展示することとなりました。私たちの暮らす群馬は、古くは上毛野国・上野国と呼ばれ、とくに古墳時代においては東国随一の勢力を誇る地域でした。なかでも、現在の前橋・高崎市域はその中核を占めたため、重要な遺跡・遺物が数多く残されています。集落跡・巨大古墳・豪族の館・大寺院・古碑・城郭など、両市が保有する国指定史跡はあわせて21箇所を数え、日本でも指折りの多さです。これほど優れた文化財を保有する私たちは、古代に思いをはせるだけでなく、偉大な文化を生み出したパワーの源泉を探り、地域づくりや人づくりの糧として活用するべきであると考えます。そのため、両市が保有する歴史資産の一端をここに紹介します。古代からのメッセージに耳を傾け、対話を楽しみ、未来への可能性を探っていただければ幸いです。

平成20年1月

前橋市長 高木政夫
高崎市長 松浦幸雄

主催：前橋市・前橋市教育委員会／高崎市・高崎市教育委員会
後援：上毛新聞社・朝日新聞前橋総局・毎日新聞前橋支局・読売新聞東京本社前橋支局・NHK前橋放送局・群馬テレビ・FM群馬・ラジオ高崎

豪族たちの物語

豪族による地域開発

3世紀中～6世紀頃に当たる古墳時代。各地の豪族はヤマト地域の大王を中心に連合し、国がまとまる基礎を築く。この時代は「大開発の時代」であり、豪族たちは大陸から文化・技術を導入し、地域の開発を進めた。当時「上毛野」と呼ばれた群馬県は全国屈指の有力地域であり、前橋・高崎地域はその中心であった。5世紀には榛名山麓、続いて赤城山麓の開発が始まり、豪族のシンボルである大型の前方後円墳が造られていった。

拓かれる榛名山麓

6世紀の初め頃、榛名山が大噴火し、当時の社会を地中に埋没させた。最近、ぶ厚い火山灰の下の発掘調査が進み、5世紀頃(古墳時代中期)の社会の様子や仕組みがよく分かってきた。

社会の中心は、豪族居館三ツ寺I遺跡(高崎市三ツ寺町・井出町)にある。豪族は、この巨大な館に住み、地域の神をまつる祭祀を盛んに行った。館のまわりには、庶民のムラが密集する。さらにその南方の低地には用水路が引かれ、広大な水田地帯が広がっていた。館の北西には、豪族の墳墓が集まる保渡田古墳群(保渡田町・井出町)があり、さらに西方の箕郷町には渡来人の墓も残されていた。三ツ寺I遺跡は山麓の湧水地帯のただ中にある。豪族は水源地をおさえ、そこからの水利権をわがものとして榛名山麓(井野川流域)一帯を支配したと考えられる。



榛名山麓の古墳時代の景観復元模
(かみつけの里博物館蔵)



空から見た保渡田古墳群
(手前:八幡塚古墳、奥:二子山古墳)



盾持人埴輪
(八幡塚古墳出土)

ほとた 保渡田古墳群(高崎市保渡田町・井出町)

三ツ寺I遺跡を拠点として榛名山麓を治めた豪族たちが、死後葬られたのが保渡田古墳群である。5世紀後半に二子山→八幡塚→薬師塚の順で造られた3つの大前方後円墳は、どれも墳丘長100mクラスで、二重堀を巡らし、多量の埴輪を並べている。棺は、高崎市観音山丘陵産の凝灰岩を加工した舟形石棺である。この形式の棺は、とくに有力な地方豪族が採用したもので、なかでも5世紀後半の西毛の大古墳は、みなこの棺を用いた。舟形石棺を共有する西毛豪族連合が形成され、保渡田古墳群の主がその頂点に立っていたのだ。

また、この古墳群の埴輪の充実は、世界的に有名である。埴輪県ともいわれる群馬において、本格的埴輪生産組織を立ち上げ、人物埴輪様式を導入したのは、保渡田古墳群の豪族にほかならない。



八幡塚古墳の埴輪群像(復元)



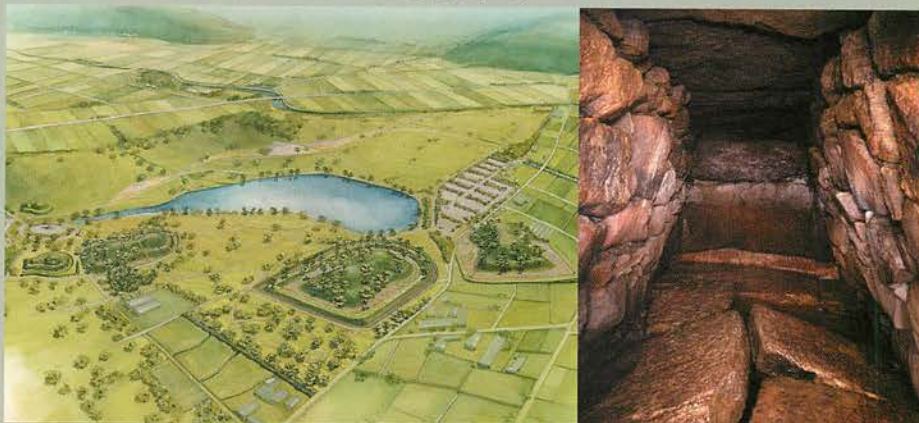
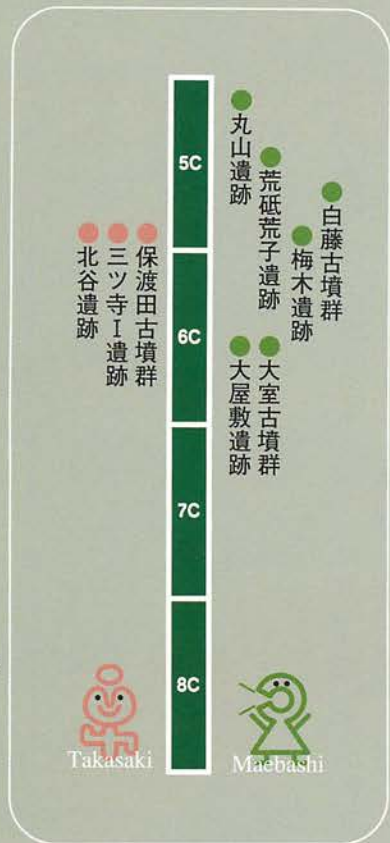
鶴飼いを表した埴輪(八幡塚古墳出土)



舟形石棺(八幡塚古墳)

拓かれる赤城山麓 大室古墳群（前橋市西大室町他）

6世紀代に赤城山南麓に君臨した豪族3代の墓と考えられる大型の前方後円墳3基を中心とする古墳群である。新しい技術・文化の導入が見られ、この地の豪族がヤマト政権から強力な支援を受けていたことが想定される。



1段目 左:大室古墳群/右:前二子古墳の石室(整備前)
2段目 左:前二子古墳石室に副葬された土器/中央:前二子古墳石室に副葬された玉類
右:アーネスト・サトウが描かせた小像付筒形器台
3段目 左:中二子古墳/右:小二子古墳

豪族居館（前橋市泉沢町・荒子町・西大室町）

荒砥地区では、5世紀代に入り丸山遺跡・荒砥荒子遺跡・梅木遺跡の3基の居館が築かれる。

白藤古墳群（前橋市粕川町膳）

5世紀中葉～6世紀前半の群集墳である。直径10～20mの円墳が40基以上もあり、この地域に入植した集団の墓域と考えられる。

大屋敷遺跡（前橋市総社町総社）

古墳時代末期～律令期のの上野国の中心地に位置する。6世紀代の集落から出土した遺物からは、有力者の存在が推定される。

みつでら きたやつ 三ツ寺I遺跡と北谷遺跡 （高崎市井出町・三ツ寺町、冷水町・引間町）

三ツ寺I遺跡と北谷遺跡は、国内でも著名な豪族居館跡である。両者は約3km離れるが、同形・同規模で5世紀後半に並存した。よって、異なる系統の豪族の館と考えられる。前者の主は榛名山南麓を、後者の主は現在利根川となっている榛名山東麓の水系を治めていたようだ。三ツ寺I遺跡の造りは、館本体が90m四方で、張出をもち、柵を巡らす。内部は2区画に分かれ、北は従者がいる家政ゾーン、南には主殿、井戸、外部から導いた水を流す石敷きの祭場がある。ここでは流水を用いた大規模な祭祀が行われた。館の斜面には石を貼り、幅30m・深さ3mの広い濠を巡らして、貯水池の機能を兼ねていた。

居館は、豪族の家であると共に、聖水を用いた祭祀の場であり、農業水利権をわがものにした豪族が設けた地域経営拠点だった。

三ツ寺Iの主は、死後保渡田古墳群に埋葬されたが、北谷遺跡の主の墓は前橋市総社町周辺の古墳（王山古墳など）が候補にあげられる。



三ツ寺I遺跡復元模型写真
（かみつけの里博物館蔵）



北谷遺跡の航空写真

II 海を越えてきた人と文化

渡来文化の導入

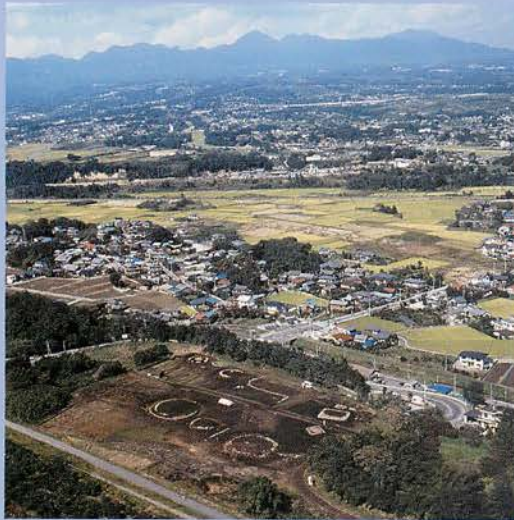
古墳時代は「国際化の世紀」でもある。豪族たちは大陸から「渡来人」を招き、文化・技術を積極的に導入した。この時代に、馬の飼育や乗馬、織物、鍛冶などの技術が、また文字そして仏教といった文化が伝えられ、国内に大きな影響をもたらした。特に上毛野では、中央に匹敵するような渡来文化が導入されている。その中心となったのが前橋・高崎の豪族たちであった。

ながとろ 剣崎長瀨西遺跡の渡来人 (高崎市剣崎町)

高崎市剣崎町の長瀨西遺跡からは、数多くの渡来系文物が発見された。それらは、①方形の積石塚(墓制)、②古い段階のカマド(食生活)、③韓半島系の日常土器(食生活)、④馬の埋葬穴(生業と儀礼)、⑤金の耳飾(服飾文化)、のセットである。東日本でも古い段階(5世紀)の渡来文物が、これほど充実した例は東日本唯一であり、古墳時代の高崎・前橋地域に渡来人が住んでいたことを証明している。

この遺跡の竪穴住居には高比率でカマドが採用され、伝統的な炉に置き換わっている。渡来人がもたらしたカマドが、調理法を激変させたのである。また、轡をつけたまま葬られた馬の墓もみつかった。日本人は古墳時代まで馬を知らなかったから、馬の墓を築く風習は、馬を育てる渡来人がこの地に到来したことを示す。

日本書紀には、群馬県地域の豪族がヤマト王権に協力し、韓半島での活動を行った記事がある。高崎・前橋地域の豪族は、そうした活動を通じて人脈を結び、馬の生産や水利開発といった新しい産業を興すために、渡来人を招聘したのである。



長瀨西遺跡の全景



金の耳飾り



積石塚

石だけを積み上げて造った墳墓を「積石塚」という。長瀨西遺跡の積石塚は方形で、日本にほとんど例がない。韓半島北部にそのルーツが求められる。



韓半島系の日常土器



馬の埋葬推定図



華麗な観音塚古墳の世界(高崎市八幡町)

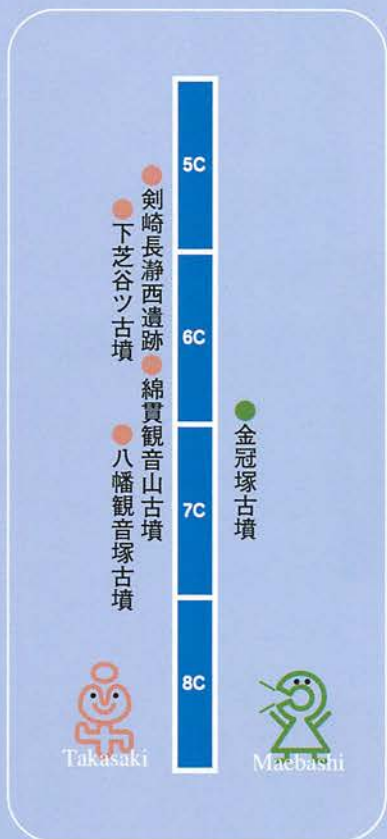
八幡観音塚古墳は、6世紀末葉～7世紀初頭に造られた大型前方後円墳で、埋葬部の横穴式石室は巨石を用い、国内有数の規模として知られる。そして300点以上の豊富な副葬品(武器・武具・馬具・鉄製工具・金属容器・鏡・須恵器など)が盗掘されずに残されていた。その中には装飾性の高い豪華な金工品が多数含まれる。

これらには、中国大陸や韓半島からの文化的影響が色濃く、承台付銅碗ほかの金属容器の存在、銀装大刀の唐草(パルメット)文様はもとより、馬具のひとつである杏葉に取り入れられたデザイン(仏像の背後に表現される「後背」の形と似る)などは、当時の先端文化であった仏教の要素を認めることができる。

観音塚古墳に埋葬された豪族は、最新の品々を入手できる実力の持ち主であった。そうした文物や情報が行き交う、当時の国際交流の様子が目に浮かぶのである。

Mt. Akagi

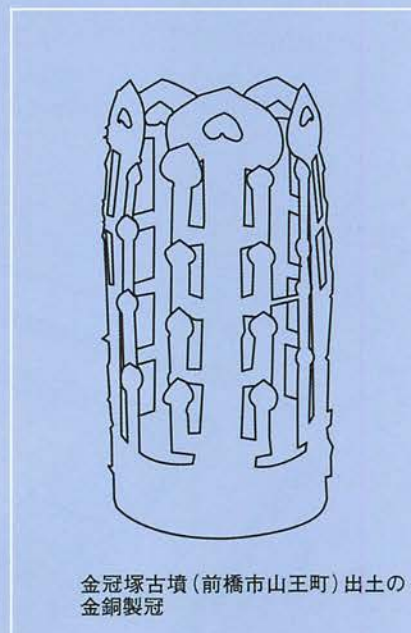
金冠塚古墳



観音塚古墳の石室



承台付銅碗



金冠塚古墳(前橋市山王町)出土の金銅製冠

下芝谷ツ古墳(高崎市箕郷町下芝)

保渡田古墳群の西1kmでみつけた5世紀後半の古墳である。下の段は一辺20mの方墳で、上の段に一辺8.5mの積石塚を乗せている。その間の平坦部には円筒埴輪が巡る。積石塚中央に埋葬部(竪穴式石室)があり、馬具・ヨロイ・装飾品とともに金銅製飾履(金銅製のクツ)が出土した。

この古墳は、韓半島的な方形積石塚と日本的な円筒埴輪や盛土墳が組み合わされた構造をしており、副葬された飾履の存在も合わせて渡来系の人物が埋葬されたと考えられる。三ツ寺I遺跡の豪族に招聘され、榛名山麓の地域開発や馬の生産の技術指導を行った人物像が想像される。



谷ツ古墳



谷ツ古墳出土の金銅製のクツ(原品)



金銅製のクツ(復元品)

川古墳から寺院へ

古墳から寺院へ

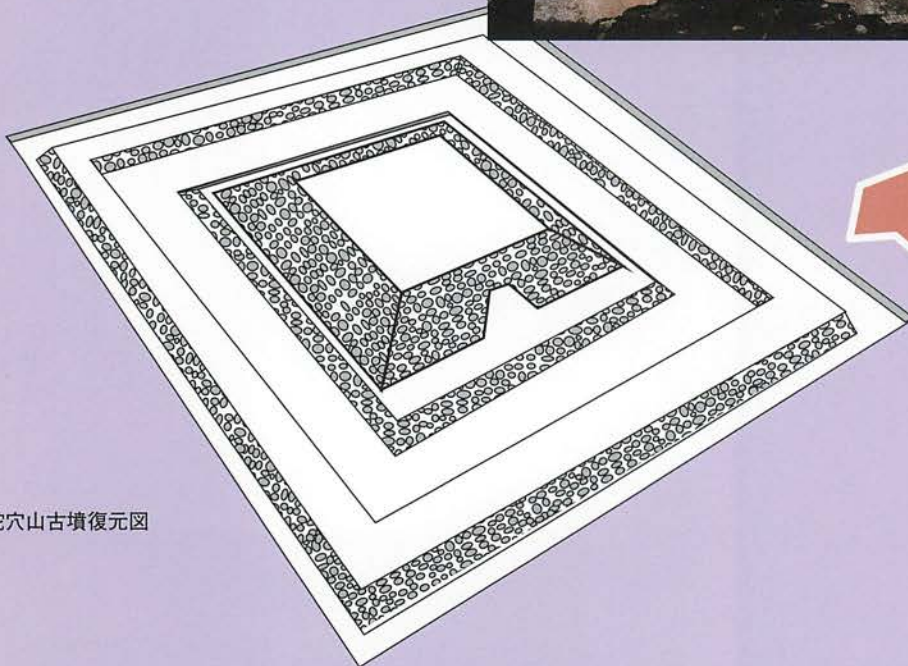
仏教は6世紀の半ばに大陸から伝えられた。7世紀も半ばを過ぎると、地方の有力な豪族は強大な勢力を持つようになった中央の豪族にならい、寺院を建てるようになる。上毛野では、前橋・高崎両市が接する地域に大型の方墳や本格的な寺院が建てられた。この地域はやがて「上野国」の国府や国分寺などが置かれ、政治や文化、交通の中心地になっていった。

総社古墳群（前橋市総社町）

7世紀中葉から造られた愛宕山古墳、宝塔山古墳、蛇穴山古墳の3基は、古墳時代最終末期の大型方墳である。畿内の有力豪族の墳墓に匹敵する内容を持ち、古代上野の最有力豪族にふさわしいものである。



宝塔山古墳石棺



蛇穴山古墳復元図



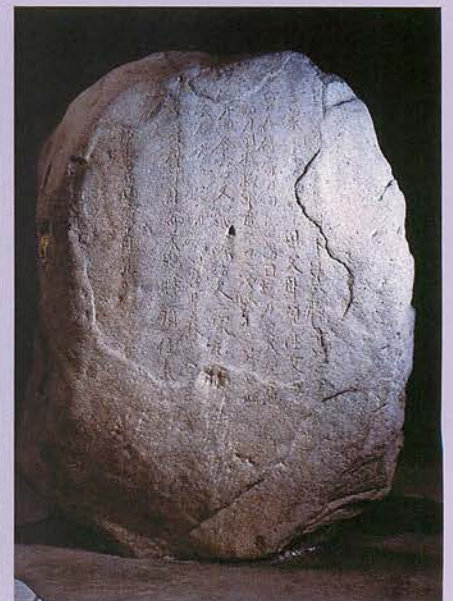
やまのうえ かないざわ 山上碑と金井沢碑（高崎市山名町）

わが国に現存する奈良時代（8世紀）以前の石碑は、わずかに十数例に過ぎないが、そのうち3例が群馬県に存在する。高崎市山名町の山上碑と金井沢碑、吉井町多胡碑がそれで、「上野三碑」と呼ばれ、最高ランクの国特別史跡に指定されている。三碑の建つ地域は、古代多胡郡に属した。

石碑を建てる文化は中国に起源があり、韓半島から日本へ伝わった。飛鳥時代から奈良時代（7・8世紀）の段階には、わが国で文字を操れる人々の数はきわめて限られていた。その中で、当地に碑が相次いで建てられたことはきわめて重要であり、渡来人を含む識字者たちが多く存在したことを証明する。また碑文が当時最先端の思想であった仏教に関わることも重要であり、古代高崎・前橋地域の文化力の高さが浮きぼりになる。



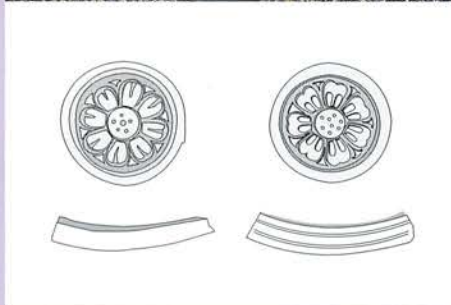
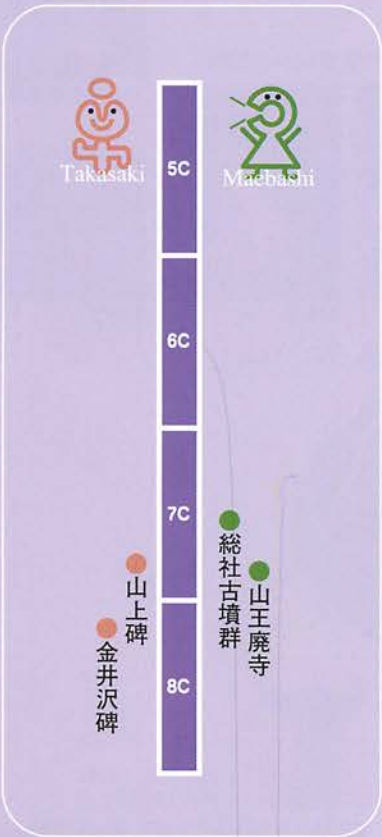
山上碑
放光寺（山王廃寺）の僧の長利が母のために建てた墓誌



金井沢碑
仏教の教えで結ばれた人々が祖先や父母の安寧を祈った碑

ほうこうじ
山王麿寺（放光寺）（前橋市総社町総社）

7世紀後半に建てられた、東国を代表する古代寺院である。塔心礎、鳩尾、塑像片など豊富な遺物が出土した。北に講堂、南東に塔、南西に金堂を配し、周囲を回廊が取り囲む法起寺式の伽藍配置で、100m四方の規模である。総社古墳群を墓域とする上毛野氏が造営したものと考えられる。



- 上から
- 山王麿寺伽藍想定復元図
- 石製鳩尾(日枝神社)
- 石製鳩尾(個人宅)
- 根巻石/塔心礎
- 軒瓦
- 金銅製飾り金具
- 塑像(天蓋)
- 緑釉陶器水注他

『山王麿寺』報告書より

山王麿寺の1974年の調査で「放光寺」の文字瓦が出土した。「山上碑」の碑文と「国宝九条家本延喜式紙背文書上野国交替実録帳」にみられる「放光寺」をつなぐ資料となり、山王麿寺が「放光寺」であることが判明した。



放光寺の文字瓦



国宝九条家本延喜式紙背文書
上野国交替実録帳



塑像(人物像等頭部)

「こんな遺跡を調査しました」平成18年度の遺跡調査速報

【高崎市】

- ①国史跡箕輪城跡/高崎市箕郷町東明屋/史跡整備/中世後半(15世紀後半~16世紀)
- ②国史跡井出二子山古墳/高崎市井出町/史跡整備工事/大型前方後円墳(5世紀後半)
- ③国史跡日高遺跡/高崎市日高町/史跡整備/弥生時代後期集落ほか
- ④市史跡山名古墳群/高崎市山名町/史跡確認調査/古墳時代後期の前方後円墳(6世紀終末)と群集墳(6~7世紀)
- ⑤下芝五反田・萬行遺跡/高崎市箕郷町下芝/高圧鉄塔建設/平安・中世耕地
- ⑥棟高遺跡群/高崎市棟高町/区画整理/縄文中期・古墳後期の集落など。
- ⑦棟高西石田遺跡/高崎市棟高町/小学校建設/平安時代水田ほか。
- ⑧京目作道Ⅱ遺跡/高崎市京目町/市道建設/平安時代水田ほか。
- ⑨飯塚西金井Ⅱ遺跡/高崎市飯塚町/店舗建設/平安時代水田・近世碓氷社
- ⑩福島富士腰南遺跡/高崎市福島町/介護施設/弥生・平安/方形周溝墓・集落
- ⑪菅谷高畑遺跡/高崎市菅谷町/土地区画整理/古墳・奈良・平安時代集落ほか



棟高西石田遺跡



山名古墳群



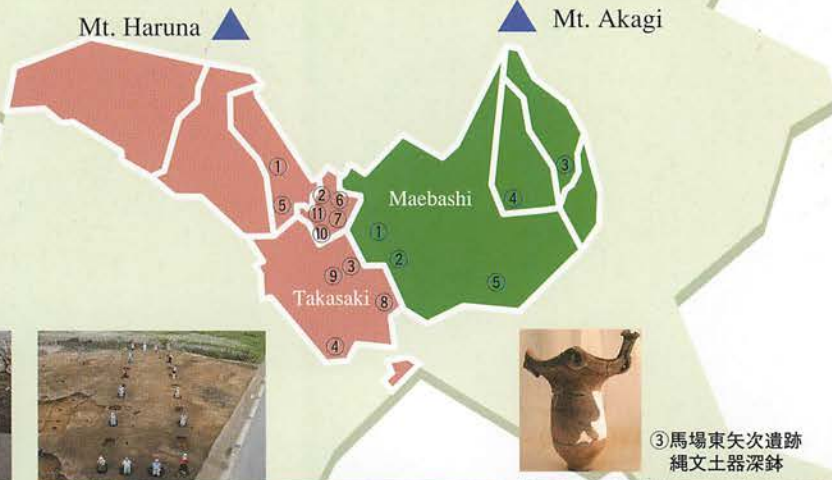
箕輪城



棟高遺跡群

【前橋市】

- ①山王廃寺の調査では、回廊の発見、講堂規模の確定、瓦製鴟尾や素紋鬼瓦の出土など大きな成果をあげた。
- ②上野国府関連の調査では、元総社蒼海遺跡群から国府に関連する大溝や大型掘立柱建物跡を検出した。また、40点近い緑釉陶器片が溝状遺構からまとめて出土した。



③馬場東矢次遺跡
縄文土器深鉢



①山王廃寺 左上から 講堂の版築(2枚とも)
左下から 回廊の根石列/回廊の根石

②蒼海遺跡群 左上から大型掘立柱建物跡/国府
に関する大溝、右下 縄文土器・香炉

④横沢五反田遺跡
縄文時代の陥し穴

⑤広瀬木ノ宮遺跡
古墳時代の掘立柱建物跡

【遺跡を活かしたまちづくり】

市民の力で甦る遺跡

“プロジェクト6000”平成11年にスタートしたこのプロジェクトは、八幡塚古墳(保渡田古墳群・高崎市)の円筒埴輪6,000本を市民の手で再現するものである。そして、大室古墳群(前橋市)では、平成18年度から“前二子古墳石室復元市民プロジェクト”、市民ボランティア解説員の会“大室古墳の語り部”が始動した。そこには古代に思いを馳せ、仲間と力を合わせ額に汗する参加者の姿がある。かつての豪族の権力のシンボルが、地域のまとまりや特色を示すシンボルとして甦りつつある。



保都田古墳群におけるプロジェクト6000



前二子古墳石室復元市民プロジェクト



大室古墳(つか)の語り部

前橋会場

【前橋プラザ元気21
1Fにぎわいホール】(旧リヴィン)
前橋市本町2-12-1

2008年1月9日[水]—23日[水]



高崎会場

【高崎シティギャラリー2階
第6展示室】
高崎市高松町35-1/TEL027-328-5050

2008年1月26日[土]—2月4日[月]



かみつけの里博物館

高崎市井出町1514/TEL027-373-8880

【関連展示】
「東国千年の都—前橋・高崎の古代遺産スペシャル」

2008年2月16日[土]—3月16日[日]